



資料目次

- ① Making of 防災教育チャレンジプラン 2011 第1弾
～2011年度防災教育チャレンジプランへの応募に向けて～ : p 2
- ② 防災通信 第1弾
～2011年度防災教育チャレンジプランの取組紹介～ : p 6
- ③ 防災通信 第2弾
～第1回避難訓練・第1回地域防災懇談会報告～ : p 7
- ④ Making of 防災教育チャレンジプラン 2011 第2弾
～防災・宿泊体験学習へ向けて～ : p 8
- ⑤ 防災通信 第3弾
～防災・宿泊体験学習の取組紹介～ : p 11
- ⑥ 防災通信 第4弾
～防災・宿泊体験学習の取組（実践）紹介～ : p 13
- ⑦ 防災通信 第5弾
～防災教室・第3回地域防災懇談会報告～ : p 17
- ⑧ 防災通信 第6弾
～第3回避難訓練（火災）・第5回地域防災懇談会報告～ : p 18
- ⑨ 取組の概要とまとめ : p 20

糸魚川市立根知小学校



Making of 防災教育チャレンジプラン 2011

○防災教育チャレンジプランとは

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進する為のプランです。

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府（防災担当）

<http://www.bosai-study.net/top.html>（防災教育チャレンジプランHPアドレス）

第1弾 2011年度防災教育チャレンジプランへの応募へ向けて

0. 応募までの経緯

- (1) 10月末、市教委から校長へ「防災教育チャレンジプラン2011」の紹介があり、学校及び教職員を取り巻く様々な要因を考慮し、応募する方向で段取りを始める。
- (2) 糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部、根知振興協議会会长へ応募の意向を相談し、同意及び協力をお願いする。
- (3) 12月中旬の応募締切に向けて、応募書類（予算を含めた取組計画の立案）を作成するために、地域を巡見したり、関係機関の職員と打ち合わせを行ったりしながら情報収集に奔走する。
根知公民館 糸魚川市産業部商工農林水産課 小田島建設 猪又建設 渡邊酒造
- (4) 取組計画案（以下の1～7）について、職員会議で職員の理解を得た上、糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部から意見をもらい計画案を修正し応募した。

1. なぜ防災教育チャレンジプランに応募するのか

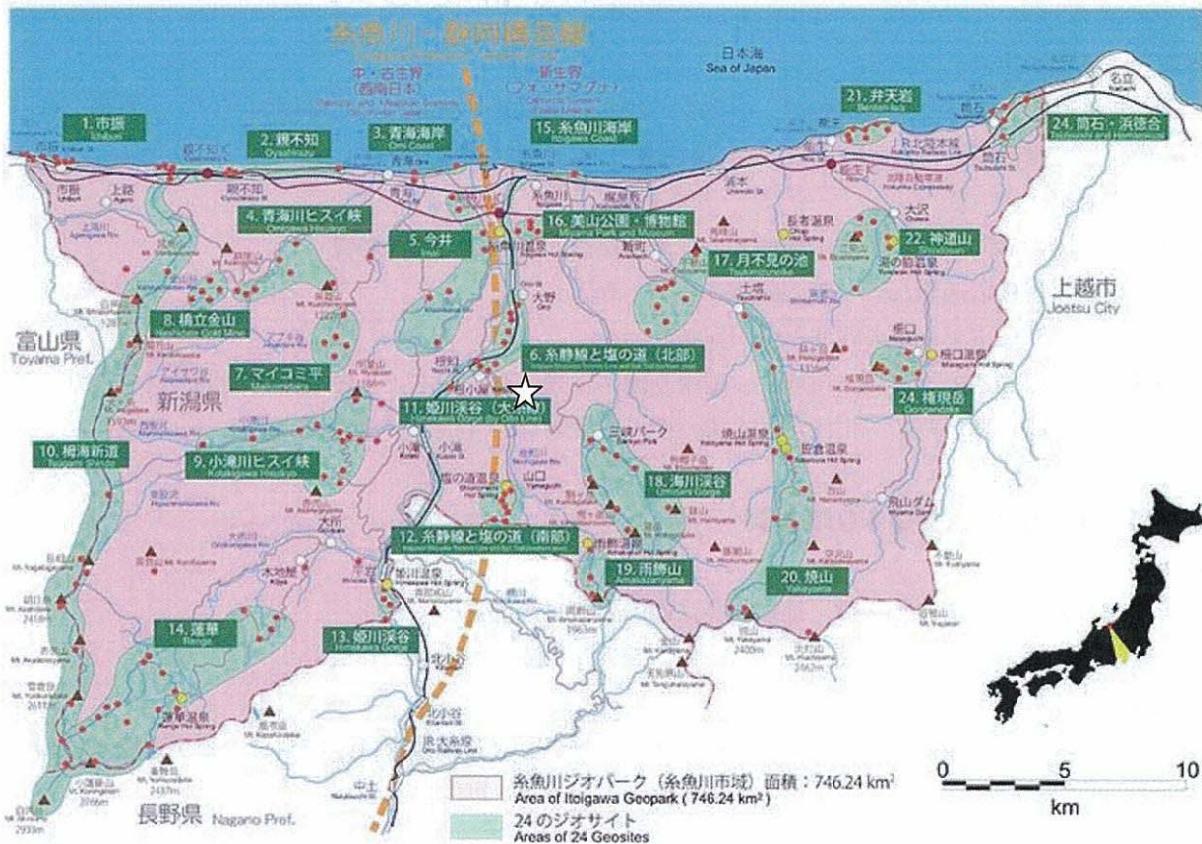
- (0) フォッサマグナパークをはじめ、根知谷、雨飾山・しろ池、姫川渓谷などのジオパークは、根知の今昔を考え、これから的生活や生き方を考える上で重要な教材であり、現在も総合的な学習として取り組んでいる。2008年のユネスコ国際ジオパーク会議の採択宣言に「地質災害に関して社会と知識を共有するためにジオパークが役に立つ」という趣旨の一文が加えられた。糸魚川市は、多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことなどから、古来より地すべり、崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩などの地質災害が多い。糸魚川ジオパークの学習過程は、まさに大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るために防災意識を高めていく絶好の機会である。

- (1) 防災・ジオパークの学習を進めるための予算が30万円を上限として配当され、専門家の話を聞くための講師謝礼や交通・宿泊費をここから捻出することができ、これまで以上に大胆な活動を展開することができる。
- (2) 地域と一緒にになって取り組める（取り組まなければならない）活動となるため、校長の学校経営方針（地域とともに生きる）とも一致し、学校教育目標の具現化の一助になると考える。

2. 防災教育チャレンジプラン推進の基本方針

- (0) 児童や地域、教員にとって有益な活動になるようにし、多忙化に拍車をかける取組としない。
- (1) 現行の教育活動を防災教育の視点で見直し、体系化しながら関連するそれぞれの活動を再構成する。

3. 学区におけるジオサイトと自然災害の現状（図中☆印は、根知小学校の所在地）



(1) ジオサイト

①フォッサマグナパーク（糸魚川・静岡構造線・枕状溶岩・塩の道）【サイト6】【サイト12】

糸魚川・静岡構造線断層帯に起因する地震について、政府の特別機関・地震調査研究推進本部地震調査委員会は、以下に示す地震発生確率を公表しています。他と比べて群抜いて高い確率。

予想される地震規模	M 8程度		
地震発生確率	30年：14%	50年：23%	100年：41%
本断層帯は、今後30年の間に地震が発生する可能性が、わが国の主な活断層の中では高いグループに属する。			

②姫川渓谷【サイト11】【サイト13】

7. 11水害に代表される水害（土石流）

③小滝ヒスイ峡【サイト9】

④小蓮華山（氷河地形）【サイト14】

⑤雨飾山・しろ池の森【サイト19】

(2) 自然災害

①姫川・根知川の氾濫・土石流

7. 11水害で壊れた稻荷頭首工（姫川）が22年度に完成（アユの放流を根知小児童が行った）

根知川上流（中股川）の砂防工事（5年生の理科の学習内容として見学）

②地滑り（シーサイドバーレースキー場脇 蒲池の地盤の移動 道路に段差が見られる）

③ナラ枯れ被害

シーサイドバーレースキー場付近のナラ枯れ被害が甚大（他と比べ赤く枯れている木の量が多い）。

カシノナガキクイムシ（カシナガ）を起因とする樹木枯損（ナラ枯れ）は、昔から被害が単発的に

発生していたが、1980年代に入り日本海側で被害が集団的に発生するなど、各地で被害が拡大している。

④熊・猪・猿の出没

22年度は、11月17日現在で、市教委が把握した根知地区の熊の目撃情報だけで10件（延べ15頭）、公民館情報では（11月19日現在で）、18頭が捕獲されている。

(3) 災害対策

①根知川上流の砂防工事 雨飾山荘付近：小田島建設 中股川：猪又建設

②治山事業（里山の手入れ） 杉の間伐

③土砂災害ハザードマップの作成と全戸配布

※基本的に根知谷は土石流、崖崩れ、地滑り地帯に覆われている上、冬季は雪深い。こうした、危険性の認識が薄いため、市は土砂災害ハザードマップを作成し、意識を高めようとした。

4. 防災にかかわる現状（2010年まで）

(1) 小学校

①年4回（火災、不審者、地震、地震火災）の避難訓練の実施

②熊被害回避のための臨時スクールバス、熊出没注意の安全マップの作成

(2) 地域

今年度市主催の地域防災訓練を根知地区全体で実施、23年度以降は地区独自の防災訓練を検討している。

5. 2011年度（23年度）の生活科・総合的な学習の時間の内容（これまでの流れでは）

(1) 生活科の指導では、児童の活動意欲を高めるため、児童の興味・関心を發揮させながら自分と他とのかかわりを大切にし、ものごとを見つめる活動を行う。

1年…花の栽培、生き物の飼育、地域の施設の探検、地域における自然体験

2年…野菜の栽培、生き物の飼育、地域の施設の探検

(2) 総合的な学習の時間では、地域素材を生かす内容に焦点を当て、ふるさとの自然と文化、福祉と農業を中心に隔年で活動を構成していく。また、年間を通して音楽活動、外国語活動、ボランティア活動に取り組む。

3・4年…根知の文化を探ろう（地域の文化や伝統について学び親しむ活動を通して、地域の一員として自分にできること、自分の生き方について考えていく。）

5・6年…根知の農業を考えよう（米作り活動を通して、生産者の喜びや苦労を知り、地域の活性化のためにできることを考え提案していく。）

6. 防災教育チャレンジプランの過去の実践例

- 避難訓練（父母への引き渡し） ○避難所体験（炊き出し・防災グッズ・避難所生活）
- 地震・火山噴火・津波等のメカニズムについての講和 ○防災ミュージカル・劇・紙芝居・カルタ
- 救急法・訓練 ○防災センターの見学 ○運動会種目「バケツリレー」「障害物レース」
- 被災者の体験講話 ○防災情報ネットワークの構築 ○地域探検と安全マップ
- 義援金集めと励ましの手紙 ○慰霊祭への参加 ○避難経路の誘導表示の作成
- 防災クッキング（非常食を用いた調理・防災料理コンテスト）

7. 考えられる根知小の活動例

キーワード 「フォッサマグナと地震」「根知谷と土石流（地滑り）」「根知谷・里山と米・酒造り」

領域		主な内容	
		23年度（25年度）	24年度（26年度）
A 教 科 等	5・6 年総合	<ul style="list-style-type: none"> ○根知で「やるまいか農業～食・住の生活を守る～」 根知の主要産業である農業を考える（守り発展させるために） <ul style="list-style-type: none"> o nechi2008（男山）IWC 純米吟醸酒・純米大吟醸酒部門 最優秀賞受賞酒の社長による酒造りと米・ブナ林（里山）の関係 o 里山の現地調査（ナラ枯れ被害、地滑りの危険性） 小田島建設 糸魚川地域振興局 o 根知の農業事情 小田島建設 やる米花農業 o 土砂災害を防ぐ砂防工事 小田島建設 猪又建設 o 田植え、水の管理、稻刈り体験 余った苗でバケツ稻 o 里山再生 商工農林水産課管理係 <p>※修学旅行+1泊で里山再生プロジェクトに取り組む 宇津木の森（東京都八王子市）へ（交通費と宿泊費はこのプロジェクトから捻出）</p> <ul style="list-style-type: none"> o しろ池の森間伐体験 o しろ池 200 年の水利権争い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア 防災は隣近所・地域のコミュニケーションが重要といわれている。ボランティアの輪を地域に広げることで緊急時に迅速な対応ができるようになる。
	3・4 年総合	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土の文化・芸能 おててこ舞（日吉神社祭礼）・十二社奉納相撲：五穀豊穣祈願 五穀豊穣=治山治水=・・・・防災 秋葉神社：火災除け 水神様：水難除け 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジオパーク学習 o ファサマグナのメカニズム ・フォッサマグナパーク、雨飾山・しろ池、塩の道など
	1・2 年生活	<ul style="list-style-type: none"> o サツマイモの栽培と非常食としての備蓄 o 地域探検→安全マップの作成→PTA安全指導部（注意看板の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> o 親を亡くしたウリ坊または小熊の飼育 飼うか飼わないか・大きくなったら山に逃がすか・・・命の教育
	5・6 年理科	<ul style="list-style-type: none"> ○大地のつくり 山寺地内・フォッサマグナパークの地層観察 地震・火山のはたらきと大地の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ○流れる水の働き 水害・水害対策
B 行 事 等	宿泊体 験学習	X：サバイバル体験（森小屋づくりと電気のない生活） 妙高少年自然の家キャンプサイト 立ち木を柱として小屋を作る	<ul style="list-style-type: none"> Y：歩荷茶屋を用いた宿泊 Zの避難所体験を生かした宿泊
	避難訓 練	<ul style="list-style-type: none"> ○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災 	<ul style="list-style-type: none"> ○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災
C そ の 他	児童会	<ul style="list-style-type: none"> o 緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義について o 被災地への義援金集め 	<ul style="list-style-type: none"> o 緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義について o 被災地への義援金集め
	その他	<p>※地域防災組織の立ち上げ これとBのZ（避難所体験）は連動</p> <ul style="list-style-type: none"> o 避難所生活体験者及び避難所運営体験者を招いた研修会 o 避難所に必要な物品の整備 不要になった毛布の寄付依頼、非常食の備蓄 o 情報ネットワークの整備 メール配信を用いた緊急連絡通知 	<ul style="list-style-type: none"> Z：避難所体験（学校での電気のない宿泊、炊き出し体験）+地域防災訓練との連携（大雨による土砂災害 or 地震） 被災体験者、避難所運営者のお話 <p>※PTC行事または地域行事として実施 週休日または夏休み中</p>



根知小防災通信【第1弾】2011.4.25

—2011年度防災教育チャレンジプランの取組紹介—

テーマ：根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育

1. 防災教育チャレンジプランとは

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進する為のプランです。

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府（防災担当）

2. なぜ防災教育チャレンジプランなのか

2011年3月11日から今もなお続く東日本大震災の恐怖。今、自然災害に備えることは急務です。フォッサマグナパークをはじめ、根知谷、雨飾山・白池、姫川渓谷などのジオパークは、根知の今昔を考え、これから的生活や生き方を考える上で重要な教材であり、これまでも総合的な学習として取り組んできました。2008年のユネスコ国際ジオパーク会議の採択宣言に「地質災害に関して社会と知識を共有するためにジオパークが役に立つ」という趣旨の一文が加えられました。糸魚川市は、多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことなどから、古来より地すべり、崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩などの地質災害が多い所です。糸魚川ジオパークの学習過程は、まさに大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るために防災意識を高めていく絶好の機会であると考えます。

3. 取組の2本の柱

(1) これまでの教育活動（総合的な学習の時間や学校行事）を「防災」の視点で整理し、発展・充実させて取り組む。

(2) 根知小学校を避難所とした場合の地域防災組織の運営について地域とともに研修する。

① 地域防災懇談会の開催

構成メンバー 学校職員、根知振興協議会、糸魚川市教育委員会、糸魚川消防署防災室 等

② 主な内容（案：今後の地域防災懇談会で検討・修正）

特別会 4月13日：教育委員会との事前打ち合わせ

特別会 4月16日：根知振興協議会総会における取組計画の説明

第1回 5月 9日：避難訓練①と「ジオパークと自然災害」の学習会

特別会 5月 日：自主防災組織について説明会（根知振興協議会主催）

第2回 6月31日・7月1日：宿泊体験学習（避難所体験）と災害体験者による講話

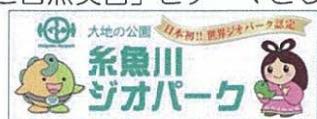
第3回 11月 日：避難訓練③と避難所運営についての研修

第4回 1月 日：避難訓練④と根知小学校における避難所運営についての検討会



5月9日（月）午後1時55分過ぎに、地震を想定した避難訓練を実施します。また、避難訓練の後に、フォッサマグナミュージアム学芸員：竹之内 耕先生による「ジオパークと自然災害」をテーマとした学習会（午後2時10分から2時40分）を計画しています。

保護者・地域の皆さんも、ぜひ参加してください。
お待ちしております。





根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



1. 第1回避難訓練

5限の授業開始早々に緊急放送「緊急地震速報が出されました。強い地震が起きる可能性があります。倒れやすいものから離れ、机の下にもぐりなさい。」…震度4の地震発生…「地震はおさまつきました。先生の指示に従い、すぐにグラウンドへ避難しなさい。」

地震を想定した避難訓練を実施しました。子どもたちは、「お・は・し・も」を意識した行動がしっかりとできましたが、「頭を帽子や教科書等で守ること」については、「しっかりできなかった」と評価する児童が多くいました。

今後、この頭を守ることについて、とても嬉しいお知らせがありました。根知公民館の事業として、地域のボランティアの方々が子どもたち全員(職員分も)の防災頭巾を作ってくださるということです。子どもたちが、地域の方々に支え守られていることに感謝申しあげます。



2. ジオパークと自然災害についての学習会



フォッサマグナパークの学芸員：竹之内耕様から、ジオパークと自然災害について、お話をいただきました。

冒頭に自然災害の種類を確認し、糸魚川ジオパークの豊かな自然や伝統文化などの魅力に触れながら、ジオパーク特有の自然災害(火山の噴火、土石流、崖崩れ・地滑り、雪崩など)について、とても分かりやすく説明をしていただきました。ジオパークの学習は、地域や災害の学習でもあることをみんなで確認しました。



3. 第1回地域防災教育懇談会

①避難訓練について

糸魚川消防本部防災室防災係：小林正広様から、避難訓練に臨む真剣な子どもたちの態度について、とてもよい評価をいただきました。また、今後の課題として、「ガラスが飛散し足もとが悪くなる震度5弱以上を想定した訓練も必要なこと」「低学年の机の脚の握り方が弱かったこと」「頭を保護することが不徹底であったこと」「児童は黙って静かに行動するのがよいが、職員は必要な指示を大きな声でもっと出してもよかったこと」などについてご指摘をいただきました。

②今後の取組について（意見抜粋）

- ・現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯など条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。そうした際に、児童との連絡の手段・体制が問われてくる。
- ・避難訓練の事前連絡を児童だけでなく教職員にもせずに訓練を実施したことがある。職員には好評であり、日頃の職員の心構え・意識が高まる。
- ・第2回と3回の間がある。防災・宿泊体験の経験後に、その経験を生かし、夏休みなどを利用して2~3泊の避難所体験をさせてみてはどうか。
- ・宿泊体験の際の非常食については、市として提供できるものがあるので相談してほしい。
- ・カードゲームを用いた防災学習は、事前説明がないと効果がないものもあるので検討が必要。

③総括（要約）

市教育委員会指導主事：松縄隆之様から、「防災教育は、“万が一のためではなく、いつ起きててもおかしくない・だれにでも必要なこと”としてとらえたい。そして、自然のすばらしさと恐ろしさを再確認するとともに、ふるさとへの愛着をもたせたい。」「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにしている。また、被災地では、中高校生が大事な役割を担っている。子どもたちをこの防災教育を通して、これから担い手として活躍できるよう育ててほしい。」とご指導をいただきました。



Making of 防災教育チャレンジプラン 2011

第2弾 防災・宿泊体験学習へ向けて

1. 防災・宿泊体験学習（根知っ子よ！10の特別使命をクリアせよ！）概要

(1) ねらい

集団での宿泊体験や10この防災にかかる課題（MISSION）の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、以下の4つの能力を育む。

- ・人間関係形成能力 不自由な環境の中でも、自分の感情を抑え他のことを思いやることができる。
課題を解決しようと仲間と協力することができる。
 - ・意思決定能力 自分にできること、できないことを判断し、相手に伝えることができる。
集団の中でのマナーを守ることができる。
 - ・情報活用能力 これまでの経験や新しい知識を思い出し、活動に生かすことができる。
 - ・将来設計能力 体験したことを日常生活の具体的な場面と関連付けて考えることができる。
- (2) 期日
平成23年6月30日（木）・7月1日（金）
- (3) 対象
全校児童 32名 教職員 6名
- (4) 内容



【想定】

来年に創立40周年を控え、根知小学校の歴史を訪ねる遠足へ、途中（シーサイドバレー付近）震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの宿泊施設（歩荷茶屋）に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電状態（水道は夜復旧・・・）となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・

上記想定を基に、以下の10のMISSION（特別使命：課題）を児童に提示した。

- MISSION 1：蒲池地内の地滑りについての学習
- MISSION 2：校地外での地震避難訓練
- MISSION 3：電気・水のない生活体験
- MISSION 4：カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習
- MISSION 5：非常食での生活体験①
- MISSION 6：避難所を盛り上げる即興スタンツ
- MISSION 7：非常食での生活体験②
- MISSION 8：根知の土石流・土砂災害についての学習
- MISSION 9：根知の七夕飾り
- MISSION X：避難所清掃

※防災・宿泊体験学習（プラン）の詳細は、防災通信③と④、または教育ネットスペースK投稿の「防災教育チャレンジプラン（宿泊体験学習）」と「必見！防災教育チャレンジプラン（宿泊体験学習実践記録）」をご参照ください。

2. 実施までの経緯（_____部はプランのキーワードになった部分）

- (1) これまで当校では、隔年で行われる高学年の修学旅行以外に、集団宿泊体験学習を実施してこなかった。しかし、（新）学習指導要領には、総則第1教育課程編成の一般方針の2「学校における道徳教育は、・・・道徳教育を進めるに当たっては、・・・児童が自己の生き方にについての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊体験やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して・・・社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないこと

をしないようにするなどに配慮しなければならない。」と記されている。このことを受け、23年度（2011年）は、全校で行う集団宿泊体験学習を実施したいと考えていた。

- (2)宿泊地の選定に当たって、経費のあまりかからない少年自然の家や遠足を兼ねて（学校行事の精選）市内のキャンプ場（しかし、テントは持ち込みとなり、歩くには遠い場所）を利用するなど候補地として検討していた。そんな折、地元の宿泊施設（歩荷茶屋）を利用するなどを地域住民から強く勧められることもあり、防災教育チャレンジプランの活動支援金を歩荷茶屋の宿泊代に充て、地元にお金を落とす方向で宿泊体験活動を計画することにした。
- (3)23年5月9日の第1回避難訓練後の地域防災懇談会①（学校職員と地域の各地区長、公民館長に加え、市教育委員会、市消防本部防災室、根知駐在所長等が構成メンバー）で、今回の避難訓練や今後の計画について意見をいただいた。

①避難訓練について（市消防本部防災室防災係長）

「ガラスが飛散し足もとが悪くなる震度5弱以上を想定した訓練も必要なこと」「低学年の机の脚の握り方が弱かったこと」「頭を保護することが不徹底であったこと」「児童は黙って静かに行動するのがよいが、職員は必要な指示を大きな声でもっと出してもよかったです」となど



②今後の取組について（意見抜粋）

「現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯など条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。そうした際に、児童との連絡の手段・体制が問われてくる。」「避難訓練の事前連絡を児童だけでなく教職員にもせずに訓練を実施したことがある・・・日頃の職員の心構え・意識が高まる。」「第2回と3回の間がある。防災・宿泊体験の経験後に、その経験を生かし、夏休みなどをを利用して2~3泊の避難所体験をさせてみてはどうか。」など

③総括（市教育委員会指導主事）「防災教育は、“万が一のためではなく、いつ起きてもおかしくない・だれにでも必要なこと”としてとらえたい。そして、自然のすばらしさと恐ろしさを再確認させるとともに、ふるさとへの愛着をもたせたい。」「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにしている。また、被災地では、中高校生が大事な役割を担っている。子どもたちをこの防災教育を通して、これから担い手として活躍できるよう育ててほしい。」

地域防災懇談会①の後の職員会議で、プラン（1次案）について協議した。

1次計画案の概要

「白池の森までの遠足の途中（シーサイドバレー付近）で震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの宿泊施設（歩荷茶屋）に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電状態（水道は夜復旧・・・）となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・」の想定の下、1泊2日で次の五つの活動内容を仕組む。

①電気のない生活体験 ②非常食での生活体験 ③カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習 ④根知の土石流・土砂災害についての体験談 ⑤避難（移動）訓練

この会議で、次のような意見が出された。

「災害時対応訓練とは言え、この内容では楽しさがない。夜は星の観察とか・・・」といった意見の一方で、「非常食（おやつ）の300円は多いのでは」「2日目の朝食に、炊き出しのご飯を食べさせるよりも避難所生活を想定し、少ない非常食を自分たちで考えて分け合う方が、児童はいろいろと考えることができてよいのでは」「リヤカーを用いるのなら帰りも歩かせて、お腹を空かせた方が、給食のありがたさが分かるのでは」など、ハードルを上げる意見が多く出された。また「帰校後の保護者への児童引き渡しについてどうするか」「児童・保護者への事前の通知では、どこまで知らせるのか」「児童が職員を頼らないようにした方がよいと思うが、職員はどんな立場で参加するのか」など、初めての取組だけに懸念事項は尽きなかった。

さらに「遠足の途中で地滑り地点を見学に行く想定に無理はないか？遠足に行く目的が不明確」「切実感と児童のモチベーションを高めるにはどうしたらよいか」と自問自答することになった。

(4) 5月の職員会議での検討結果に基づき、6月6日の職員会議で修正案（本計画案）について再検討した。協議した結果に沿って、各職員が担当のMISSIONについて、具体的な計画、準備を進めることになった。※「防災教育チャレンジプラン（宿泊体験学習）」参照

6月10日（金） 保護者への行事案内・参加応諾書の発送
6月13日（月） 職員研修 各MISSION担当者の計画案検討
6月18日（土） 参加応諾書集約（休日学習参観日）
6月24日（金） 職員必携完成 ×→原稿がそろわざ未完成
6月25・26日 宮城県へ震災復旧ボランティアとして参加（教頭）

※参加したボランティアで班長を務めたときの経験

- ・自分たちで状況を判断しながら進めなければならないこと
- ・作業に没頭してオーバーペースにならないよう作業時間をコントロールする役など、能率よく作業を進めるよう仕事内容を分担すること
- ・班長は班員の安全確保に全力を尽くすこと
- ・各班の間の連絡調整が必要なこと

など

※このボランティアへの参加が縁で、本プランが新潟テレビ21の取材を受けたことになった。（7月5日の全力LIVEで放映）

6月27日（月） 職員研修（職員必携に基づく打合せ会） ×→打合せ後職員必携完成
6月29日（水） 前日準備（最終点検）

3. 防災・宿泊体験学習推進のポイント

実施までの経緯でキーワードとなったことを積極的にプランに取り入れた。
例えば、

- (0) 職員の個性を生かしながら全職員が各MISSIONを担当することにより、全職員でプランを創り上げている自覚（効力感）を高めようとしたこと
- (1) 目的意識を持たせるため、来年迎える創立40周年と遠足のコース（統合前の旧校舎付近が地滑り地帯となっている）を関連付けたこと
- (2) 児童のモチベーションを高めるため、取り組ませたい活動はMISSIONとして提示し、事前にポスターでプランの想定を通知したこと（資料1）
- (3) 児童にワクワク感と連帯感を持たせるため、各MISSIONはボード（スケッチブック）で児童に提示し、MISSIONの内容を児童全員で声に出して読むようにしたこと
- (4) 既存の縦割り班（4班、各班8名）を活用し、班長を中心として、相談、協力しながら活動を進めること
- (5) 班長は、班員の安全確保に努め、班長同士でも相談しながら取り組むこと
- (6) 班長としての自覚を高めるため、班長はロゴマーク入りのワッペンを腕につけること（資料2）
- (7) 職員は、MISSIONを提示するとき以外は、避難所に一緒に避難している地域住民（避難民）として振る舞うこと
- (8) 楽しさを本プランの前面には出せないと判断し、また市教委の「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにしている」の言葉を受け、避難所を明るくするための即興スタンツをMISSIONとして実施すること
- (9) 保護者に食事内容（活動の趣旨）についての理解を得るために、持参する非常食（おやつ）の内容は事前に家庭で相談して準備するよう通知したこと
- (10) 本プランは地域防災懇談会メンバーに案内を出し、活動の様子について意見をもらうようにしたこと



資料 1



資料 2



根知小防災通信【第3弾】2011. 6. 25 —防災教育・宿泊体験学習の取組紹介—

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



根知っ子よ！ 10の特別使命をクリアせよ！

来年は創立40周年！そこで、根知小学校の歴史を調べる遠足へ行くことになりました。途中で大きな地震が発生！・・・

近くの歩荷茶屋に避難することに・・・

歩荷茶屋では、ガスは利用できますが、電気と水が使えません。そして、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになりますが、遠足用の飲み水と万が一の非常食しかありません・・・

さらに、君たちには特別使命（MISSION）が・・・

二日間で10のMISSIONをクリアできるか？



1. ねらい

集団での宿泊体験や10この防災にかかる課題（MISSION）の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、自ら学ぶ力（人間関係形成能力・意思決定能力・情報活用能力・将来設計能力）の育成を図る。

2. 期 日

平成23年6月30日（木）・7月1日（金） 雨天決行（内容やコースを一部変更して実施）

3. 対 象

全校児童（32名）・教職員

4. 内 容

2日間で、代表する以下のようなMISSIONに挑戦していきます。

「校地外での地震避難訓練」「電気・水のない生活体験」「非常食での生活体験」「カードゲームを活用した自然災害発生時の対応についての学習」「根知の七夕飾り作り」「根知の土石流・土砂災害についての学習」など

5. 宿泊場所（避難所）

歩荷茶屋（TEL.558-2388 ホワイトクリフ：TEL.558-2316）

6. 行 程

往路：学校～旧根知小学校～旧蒲池小学校～歩荷茶屋 約8km 復路：歩荷茶屋～学校 約4Km

7. 日 程

1日目（6月30日）

時 間	主 な 内 容
	1～4限・給食までは普段通り
13：10	○出発式
13：20	○学校発・移動 ○旧根知小学校
14：50	○旧蒲池小学校 ○避難所（歩荷茶屋）入所
16：00	○カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習
18：00	○避難所集会1 ※非常食での生活体験（※持参した非常食のみ）
19：15	○避難所集会2
20：00	○各部屋で就寝準備 ※電気のない生活体験 水は配給されたもののみ 各部屋懐中電灯2つ
21：00	○就寝

2日目（7月1日）

時 間	主 な 内 容
6：30	○起床
7：00	○避難所集会3 ※非常食での生活体験（学校で用意した非常食）
8：40	○根知の土石流・土砂災害についての学習
9：30	○根知の七夕飾りつくり
11：00	○避難所退所式 ○帰校式
12：10	○給食
13：10	○全員一斉下校

8. 持ち物

- ・タオル・雨具（レインコート）・非常食（ビスケット・アメなど200円程度※内容は保護者と相談）
- ・空の水筒・リュック・着替え（肌着・靴下・体操着の長袖・長ズボンなど）・筆記用具・メモ用紙

服装は、体操着または活動にふさわしい服装・帽子

9. その他

- ・1日目の夜は、持参した非常食（事前に保護者と検討したもの）のみの食事となります。
- ・夜間は、停電を想定し、各部屋2つの懐中電灯（ランタン）を活用して過ごします。また、入浴は計画には入っておりません。
- ・内容についての問い合わせは、教頭（宮川）へお願いいたします。
電話：558-2100（学校） メール：nuchi@educet.plala.or.jp
- ・1日目の19：15～避難所集会2を行います。MISSION6（当日まで秘密）への地域・保護者の参加も歓迎しますので、関心のある方はぜひおいでください。

※支援物資の差し入れは、御遠慮下さい。



根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



根知っ子よ！10の特別使命をクリアせよ！

1. ねらい

集団での宿泊体験や10この防災にかかる課題（MISSION）の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、生きる力を育む。

2. 期日 平成23年6月30日（木）・7月1日（金）

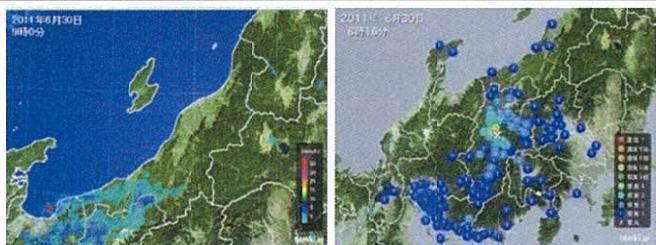
3. 対象 全校児童 教職員

4. 内容（想定）

来年に創立40周年を控え、根知小学校の歴史を訪ねる遠足へ、途中で震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの歩荷茶屋（シーサイドバーレースキー場）に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電・断水状態（水道は夜復旧・・・）となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・

5. 日程

1日目（6月30日） 予定のコース（約8km）：根知小学校→旧根知小学校→蒲池小学校（地滑り地帯）→歩荷茶屋



天候は、断続的な雨！

5:56 新潟県中越地区 震度2

8:16 長野県中部（糸魚川-静岡構造線上）
震度5強の地震発生

8:21 同上 震度4の地震発生

8:30 同上 震度2の地震発生

※<http://tenki.jp/earthquake/>より

これまでの雨量や断続的に降る雨、同じ断層上での地震発生を踏まえ、蒲池地区の地滑り地帯及び蒲池小学校の見学は中止し、写真スライドを用いた学習会へ変更することを決定しました。

○出発式（1:10） 旧根知小学校へ出発（1:45） 雨が上がり青空が…上級生が下級生を気遣い、リヤカーに乗せてあけたり…○旧根知小学校（2:20）



※現根知小学校は、平成11年に今の場所（もと姫川中学校）へ引っ越してきました。平成14年には、山之坊小と小滝小が統合されました。それまでの旧根知小学校は、39年前の昭和48年に、上根知小と下根知小、蒲池小の3校が統合され、もと根知中学校の場所で誕生しました。

この後予定していた蒲池小（地滑り地帯）の現地見学は地震のため中止となり、歩荷茶屋を目指して移動…

○MISSION2「地震だ避難せよ！」(3:00)

- ・（避難訓練）緊急地震速報が出されました。まもなく大きな地震が起きる可能性があります。倒れそうな物から離れて、広場の中央に集まり、しゃがみなさい。
- ・（…震度6強の大きな揺れ…）揺れがおさまりました。
- ・職員及び班長は、人員点呼とけがの状況を確認しなさい。（校長へ報告）
- ・周囲の状況を確認したところ…（中略）…これから歩荷茶屋へ避難します。職員の指示に従って避難しなさい。
- …（中略）…（避難後人員点呼・報告）
- ・避難が完了しました。以上で避難訓練を終わります。



○避難所(歩荷茶屋)入所式(3:15) ※MISSION3「電気と水のない夜をすごせ！」の発表

○MISSION1「地滑り地点を観察せよ！」(3:40)講師：商工農林水産課 山岸睦雄様



地滑り地帯の写真

今の蒲池小学校の写真

○班長会議(4:20)

内容：「避難所集会の進行について」「室長の選出について」「MISSION3、4について」「先生たちは避難民であること」など



※会議の途中で、「2階でドタバタと大騒ぎ・・・」、早速このことをどうすべきか、班長たちで話し合いました。

※班長は、各部屋にもどって、避難所での過ごし方を班員へ伝え、避難経路を確認したり、避難所生活で分らないことを班員にきいて集約したりしました。

例「部屋に時計がないので時間が分りません」の意見など

※避難所に用意されていた時計付きのライトを含め、各部屋に2つのライトが配られました。

室長は、ライトがつかか、時計があつていいかなど、だれに言われることなく、自ら確かめていました。

○MISSION4「カードゲームで防災を学べ！」(5:10)



「なますの学校」と「SHUFFLE」がそれぞれ2セット用意され、2班ずつ前後半で交替して実施しました。

<http://www.plus-arts.net/> プラス・アーツのホームページより

○班長会議(6:10)

・MISSION5について

- ・持参した非常食（200円程度のおやつ）と、配給された1.5リットルのペットボトル5本（4班と避難民としての職員分）で過ごす。
- ・持参した水は食中毒予防のため飲んではいけない。

※「持参した水を捨てるのはもったいない！」「手洗いに使えばいいんじゃない！」「その考えいいね」「でもうやって洗う」「・・・」「水をためる入れ物があるといいね」「使えそうな物をさがしてみよう！」歩荷茶屋内をさがして、おおきなボール（おけ）を見つけました。それを使って・・・

・MISSION6について

※司会進行は、班長4人で相談して決めるに・・・

○MISSION5(6:30)



※班長会議の内容を班員へ報告、持参した水で手洗いし、ペットボトルの水を分け合いました。

子どもたちにとって、おやつだけで食事をすませられることは、案外苦にならなかった？ようです・・・

非常食の中身は、パン・スナック菓子・アメ・チョコレート・バナナ・カロリーメイトなど

○MISSION6「スタンツでみんなの心を明るくせよ！」(7:15~8:30)



市教育委員会こども課松縄先生から、避難所や地域における子どもの果たす役割（明るくする・希望）についてお話をいただきました。

お話の中で、とてもさびしいことの例えで、「教頭先生のいない教務室は、○が○○○たような・・・」の○○に入る言葉はなんでしょうか？の問い合わせに対して、「教頭先生がいない教務室は、ロウソクの火が消えたような・・・」(T1さん)は大うけでした。(ほとんど当たっているけど、ロウソクの火は小さいね・・・。)



クイズ



じゃんけんピラミッド



クイズ



宝さがし

時間が足りなくなって、職員ドリームチームによるスタンツをカットすることになってしまいました。

○電気のつかない夜(9:00)～朝(6:30)へ



各部屋の懐中電灯は2つしかないと、下級生がトイレに行く時は、上級生が付き添ってあげていました。

また「ベッド（1段目）で寝ている○○さんが、○○さんの上に落ちたら大変だから、ぼくが代わるよ」など、各部屋では、互いに相手のことを考えてすごしていたようです。



2日目（7月1日） 天候は、やはり断続的な雨！

○班長会議(6:40)

・MISSION7について

- ・水道の水は使えます。配給されたパン（6本入りチョコチップパン5袋、メロンパン5袋）を4班と避難民（職員）で分けて食べる。



※「どうやって分けようか」「班でそれぞれ一袋ずつ分けよう」「あとは班で相談してきめよう」

○MISSION7「非常食をみんなで分けろ！」(7:00)



○MISSION8「根知の災害を学べ！」(8:40)



みんなで少ないパンを分け合って食べました。

講師：小田島建設の中村勉様・加藤政人様

量が少なすぎると思いましたが、案外足りることが分りました。

根知の災害写真



過去、11～12年に1度、大きな災害が起きていたそうです。今年は、そろそろ・・・

○MISSION9「根知の七夕かざりをつくれ！」(9:30) 山口老人会 田上悦子様他



3. 4年生が「総合」で調べたことを発表

健康・安全を祈願！

みんなで記念撮影

○MISSION10「使ったところをきれいにせよ！」(10:15)

各班で考えて、利用した場所の後片付けとゴミ拾いを行いました。

○避難所退所式(11:00)

○根知小学校へ

○帰校式(12:00)



帰りの道中で、郵便局のみなさんからアメをいただきました。「ありがとうございました。」

心配された天候も、行きも帰りも、移動中は奇跡的に雨が降らず、全行程を歩くことができました。

関係者のコメント

①糸魚川市教育委員会こども課松縄先生から

「先日の宿泊体験学習は私の予想をはるかに超えた立派な活動であったと思います。何よりも印象的であったのは、徹底的に子ども達に考えさせる姿勢を貫き通していた点です。ともすると小学生段階では大人は手のかけすぎ、子ども達は指示待ちに陥りがちですが、災害という極限状態の中では考え方を出すこと、臨機応変の対応ができることが何よりも重要になってくると思います。それだけに、今回の根知小の取組はそれらを見据えた先進的かつ実践的な内容であったと思います。我々が考える以上に子ども達は可能性と力をもっています。今回、根知小の宿泊体験学習に同行させていただき、あの子ども達なら間違いない、災害時においても根知の宝として活躍してくれることを確信できました。(後略…)

②取材をされた新潟テレビ21の近藤さんから

「直前まで楽しく歩いていたのに、避難訓練が始まつてからは、一転して真剣な表情になり、その姿に感動しました。」

③歩荷茶屋の伊藤さんから

「みんなさんが帰った後、ルームメイクの職員が使つた部屋の掃除を行つたら、部屋があまりにもきれいになつたのでびっくりしたと言つていまつた。すごいですね。」



『避難先の一夜』体验

根知小 校外で避難訓練



この取組の様子は、新潟日報、糸西タイムスで新聞報道され、7月5日の新潟テレビ21（UX）で放送されました。

また、活動経費（宿泊費・講師謝礼・ライト等）と印刷費のすべては、防災教育チャレンジプラン活動支援金で対応しています。



7月5日の新潟日報より

7月2日の糸西タイムスより

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



1. 土石流災害のしくみと根知川上流の砂防対策

(1) 土石流災害のしくみについて

講師：渡瀬智保 様（国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 建設監督官）



はじめに土石流の発生の仕組みについて、模型を用いて分かりやすく解説していただきました。その後、実際の土砂崩れや土石流の迫力ある映像を交え、「土砂が流れ出すと3～4mの大きな石をも動かす大きな力があること」、「1回目の土砂崩れが一番大きいとは限らず、1度崩れた所が2度、3度とさらに大きく崩れることもあること」などについて説明がありました。

(2) 根知川上流の砂防対策について

講師：近藤栄樹 様（猪又建設株式会社 土木工事長）

「砂防ダムってなーに？」と、砂防の目的から砂防ダムの種類、そのダムの果たす役割（効果）について、具体的に根知川上流の砂防ダムを例に説明をしていただきました。

今年も台風12号や15号、集中豪雨による土砂災害や洪水といった生活を脅かす自然災害が多く発生しており、砂防事業は、生活を守る上で大変重要であることをまとめとしてお話しされました。



2. 知っておきたい家庭における災害時の対応

講師：五十嵐勝治 様（糸魚川市消防本部防災室 防災係主査）

様々な自然災害による被災の様子を画像で紹介していただき、寝ているときや料理をしているとき、お風呂に入っているときなど、学校以外のさまざまな場面を想定して、それぞれの場面で災害が発生した際にどうしたらよいか、クイズ形式でお話ししていただきました。



第12問「大雨により土石流が発生するかもしれない…。避難する時は？」

- (a)とにかく下へ逃げる
- (b)土石流が流れてくる方向から直角に逃げる

答えはお分かりですか？

日頃から家族で、「逃げる場所・集合場所・逃げる道筋・方法・時間」と「連絡方法」、「持ち出すもの」を話し合って確認しておくことが必要であることをまとめとしてお話しされました。

猪又建設株式会社様からは、この防災教室で使用した 100 インチスクリーン1枚と、有事の際に活躍するリヤカー（折りたたみ式）2台を寄贈していただきましたので、ご紹介いたします。



根知小防災通信【第6弾】2011.12.25 —第3回避難訓練(火災)・第5回地域防災懇談会報告—

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



1. 第3回避難訓練

(1) 火災発生時の避難訓練

昼休み中(13:10)に火災が発生(火災警報機が鳴動)。児童は、自分で判断しながら安全な場所に避難しなければならない。職員は、校舎内に児童が取り残されていないかを確実に確認しながら、避難してきた児童の安全確認と安全確保をしなければならない。



今回の避難訓練については、児童への予告をせず、昼休み中に実施しました。児童は、火災発生の場所と避難場所を確認し、各自で近くの非常口から避難しました。教室から避難した児童は、いただいた防災頭巾を頭にかぶって避難していました。避難後に、市消防署の方から次のような講評をいただきました。



- ・避難指示放送から児童、職員の避難確認報告が完了するまで約3分、この学校規模における火災発生時の避難としては、とても速やかに避難し問題はありません。
- ・「お・は・し・も」についてもよく出来ていました。
- ・職員も声をかけながらトイレの中まで確認しており、問題点はありません。
- ・靴紐がほどけていたりする人はいませんか？(若干名拳手) 日頃から避難行動を考え、靴紐がほどけないよう工夫するなど注意しましょう。

(2) 消火体験(バケツリレー)

バケツに水をくんで火元(90ℓポリバケツ)まで水を効率よく運び訓練を行います。バケツ(8ℓ)を用いて、ポリバケツが水でいっぱいになるように縦割り班(4つ)で相談して運びましょう。

- ①縦割り班ごとに相談し、4つの班で競うようにポリバケツへ水を運びました。どの班も8人が2~4mくらいの間隔で並び、次の人に走ってバケツをリレーしながら水を運びました。水の入ったバケツ(約7kg)を持って走るため、重くつらい思いをしながらも水が結構こぼれてしまいました。
- ②消防署員の方から、阪神淡路大震災の際にバケツリレーをして消火作業をしたことやそのときの方法について紹介してもらいました。その後、4つの班で協力し、全員が片手間隔(移動せずに手渡しできる間隔)で1列に並び、手渡しでバケツをリレーすることにしました。空になったバケツは、足の速い児童数人が走ってもとにもどす役を務めました。お互いに声をかけて行うことの大切さを学びました。また、楽に効率よく水を運べることに専念する児童や自分の長所をいかせたことで役立てたという有用感をもった児童の姿が見られました。



①縦割り班で相談してバケツをリレーする様子

②消防署の方から説明を聞いてから、1列でバケツをリレーする様子

(3) 煙道通過体験

火災時の煙は有毒です。ハンカチや衣服の袖で口をおさえ煙を吸い込まないようにしなければなりません。煙は上方からたまるので、身を低くし煙の薄いところを通る必要があります。

消防署の方の話を聞いた後、緊張しながら煙でほとんど前が見えない教室の中をはうようにして移動しました。みんな口を押さえながら、目印のコーンをたよりに必死に前に進みました。



(4) 「あっ火事だ！煙だ！どうなる？どうする？」

煙道体験後に、消防署の方から火災発生時の行動の仕方について学びました。

- ・学校の訓練はこれからを生き抜くために行われます。煙は本当に危険です。この訓練をぜひいかしてほしいと思っています。自分で、何とかしようと思うのではなく協力を求めることが大事です。
- ・今回、バケツリレーは一列で行いましたが、ちどり方式もあります。

(省略)



- ・自分達のことは自分たちで守ろう！練習すれば上手くなる。上手になると自信をもってできる。うまくできるようになってそれが身に付くのです。
- ・根知小は防災教育に熱心に取り組んでいますが、学んだことを他の人にも教えてあげられるようになりましょう。みんながけん引役となってください。
- ・学校のような建物は、廊下の煙りは窓を開けて排煙してください。木造建設は、黒くて黄色みのある煙がでます。フラッシュオーバーがあり、窓を開けるのは危ないです。
- ・子どもが起こす火事としては、火のいたずらが多いです。
- ・消火器で消せる火は、天上に火が届いていない状態のものです。天井に火が届いたら消火を考えずに人に知らせ逃げましょう。
- ・粉の消火器は、使用すると粉で回りが見えなくなるので逃げ道を確保してから使用しましょう。
- ・消火器は、子どもでも扱えるが、安全を最優先してください。(子どもでも使えるようになっていて欲しいと思います。)

(5) 職員研修

放課後、災害時の対応について消防署の方を講師として職員研修を行いました。消火栓とポンプの場所の確認やホースの取り出しと収納の仕方も確認しました。最後に、これまでの防災教育については、「問題がないので、この方向で迷わず進めてほしい」と力強いお言葉をいただきました。

2. 公民館大会（地域防災懇談会⑤）

根知公民館主催の公民館大会が下記の内容で行われました。当日は、当校職員も参加し、地域防災について研修を行いました（地域防災懇談会）。地域防災においては、「人と人とのかかわりが重要であること」を確認しました。当校でも、来年の防災教育では、「人と人とのかかわりを重視」して取り組んでいきたいと考えています。

- ①東日本大震災等パネル展示（9：00～16：00）
- ②非常食の調理体験と試食（11：00～12：30）
- ③講演「日本海の地震と津波」（13：10～14：10）
講師 竹之内 耕さん（市学芸員）
- ④講演「災害と公民館・コミュニティー」（14：20～15：10）
講師 茂田井 信彦さん（米山公民館長）
- ⑤実践発表 「防災教育チャレンジの取組」（15：20～15：50）
発表者 宮川 高広（根知小学校教頭）
- ⑥実践発表 「自主防災組織の設立の取り組み」（15：55～16：20）
発表者 源馬 幹一さん（根知振興協議会総務）



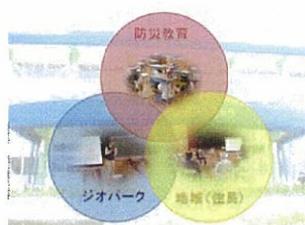
根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育～防災教育チャレンジプランへの挑戦～

糸魚川市立根知小学校 校長 大西 明

I はじめに

2011年3月11日から今も続く東日本大震災の恐怖。今、自然災害に備えることは急務である！いみじくも当校は、2010年12月に防災教育チャレンジプラン（内閣府主催）に応募し、2011年4月より防災教育に重点をおいて取り組んでいる。

当校は、全校児童32名のへき地複式の学校であり、糸魚川ジオパークのほぼ中央に位置し、学区には、フォッサマグナパークをはじめ、雨飾山、小滝ヒスイ峡などのジオサイトがある。多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことから、古来より地滑り、崩落、土石流、火山災害などの地質災害が多い所である。このジオパークの大自然と向き合うことは、大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るために防災意識を高めることにつながるものである。

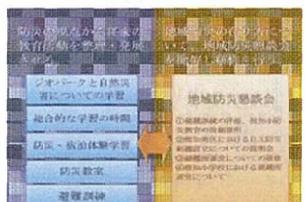


私たちの取組は、防災教育とジオパーク、地域（住民）の3つを関連付けた教育活動の実践事例として、また地域防災における学校、

地域の連携に向けた実践事例として、提案することを目的とする。

II 取組の視点と柱

地域住民と共に、地域の未来を考え、「自分の命は自分で守る」という意識が高まるよう、「防災」「ジオパーク」「地域・住民」の3つの視点から、取組の柱を2つ設定した。



一つ目は、防災の視点から従来の教育活動（総合的な学習の時間や学校行事）を工夫改善する取組（A）である。

二つ目は、地域防災懇談会（学校職員と地域の各区長、教育委員会や消防・警察職員を構成メンバーとする会）を開催し、地域防災の在り方について研修を行う取組（B）である。

III 実践例

実践1：避難訓練①・ジオパークと自然災害についての学習会・地域防災懇談会①（5月9日）：A B

実践例1は、防災教育チャレンジプランの起点となる重要な活動である。

(1) 第1回避難訓練

地域防災懇談会メンバーが立ち会いの下、地震を想定した避難訓練を実施した。「お・は・し・も」を意識した行動はできたが、「頭を帽子や教科書等で守ること」については、「しっかりできなかった」と評価する児童が多くいた。

(2) ジオパークと自然災害についての学習会

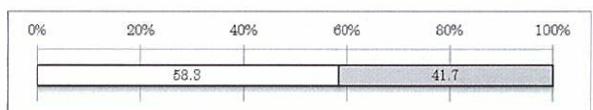
避難訓練後、全校児童及び地域防災懇談会メンバー、保護者を対象とし、市博物館学芸員を講師として学習会を開催した。



児童は、ジオパーク内の“自然や地域文化財の魅力”、ジオパーク特有の“自然災害”についての話を聞いた。特有の自然災害には、火山の噴火や土石流、崖崩れ・地滑り、雪崩などがあり、ジオパークの学習は、地域や災害の学習でもあることを確認した。

問：自分たちがすんでいるところはどんな自然災害が多いかがわかった。（3～6年生24名回答）

□ とてもない □ どちらともいえない □ どちらかといえばある □ どちらかといえば多い □ どちらかといえば多い



(3) 第1回地域防災懇談会

学習会後の地域防災懇談会では、避難訓練の内容や方法、当校の今後の防災教育の取組計画についての協議を行った。



「現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯などの条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。」「宿泊体験の際の非常食については、市として提供できるものがあるので相談してほしい。」などの多くの意見をいただき、計画の見直しを行った。

実践2：防災頭巾寄贈式（5月27日）：A

当校の取組を知り、公民館職員が地域住民に呼びかけ、防災頭巾を作りし、全校児童・職員に寄贈してくださることになった。



寄贈式を通して、児童は、「自分たちは地域の人々から見守られていること」を実感した。

実践3：防災宿泊体験学習（6月30日・7月1日）：A

全校児童32名による集団での宿泊体験や10この防災にかかわる課題（MISSION）の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、人間関係形成能力、意思決定能力、情報活用能力、将来設計能力を育むことをねらいとして、防災宿泊体験学習を行った。

遠足の意義付けや活動の動機付けを行うために、以下の内容をポスターで児童に提示した。

来年は創立40周年！そこで、根知小学校の歴史を調べる遠足へ行くことになりました。途中で大きな地震が発生！…近くの宿泊施設（歩荷茶屋）に避難することに…歩荷茶屋では、ガスは利用できますが、電気と水が使えません。そして、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになりますが、遠足用の飲み水と万が一の非常食しかありません。さらに、君たちには特別使命（MISSION）が…2日間で10このMISSIONをクリアできるか？
校長

この2日間は、日頃の縦割り班で活動することとし、班長のリーダーシップとチームワーク、さらに班長間の連携を大事に、上記を想定として10この防災にかかわる課題に取り組んだ。

（1）MISSION1：地滑り地点を観察せよ！

この日の朝8時15分頃に長野県中部（糸魚川・静岡構造線）で震度5強の地震が発生し、余震がしばらく続いた。そのため、当校に統合され廃校になった蒲池小学校付近の地滑りについての学習は、見学を中止し、現地の写真を見ながらの学習会に変更した。

（2）MISSION2：地震だ！避難せよ！

「移動途中で深度6強の地震が発生した」とする校地外での避難訓練を実施した。児童は、倒れやすい所から離れ、広場の中央でしゃがんで揺れがおさまるのを待った。職員の指示で、人員確認した後、近くの歩荷茶屋へ避難した。移動の際には、上級生が下級生の安全を気にかけ、下級生の手を取りながら足早に歩く姿が見られた。

（3）MISSION3：電気と水のない夜をすごせ！

一晩を過ごすための避難所となった歩荷茶屋は、地震の影響で停電し、「電気と水が使用できない」ことが

児童に告げられた。

（4）MISSION4：カードゲームで防災を学べ！

阪神淡路大震災での体験を基に作られた2種類のカードゲーム（「なまづの学校」と「SHUFFLE」）を活用し、縦割り班で、ゲームをしながら自然災害発生時の対応について学習した。



（5）MISSION5：限られた水と非常食で食事せよ！

「夜の食事は、遠足に持参した200円分のおやつと配給された水（8人で1.5㍑）のみであること。食中毒防止のため、水筒の水を飲んではいけないこと。」が班長会議で告げられた。班長は、水筒の水の活用法を考えたり、水を入れる容器を探したり、どうすればこの難局を乗り越えられるか知恵を出し合い、班員の理解と協力を得ながら乗り越えた。



（6）MISSION6：スタンツでみんなの心を明るくせよ！

避難所の不自由な生活の中でも心が折れないよう、避難所を盛り上げるための即興スタンツを班ごとに考えて披露した。スタンツを始める前に、市教委指導主事から、市内の避難所の様子を基に「場を明るくしてくれる子どもの果たす役割」について話を聞いた。



（7）MISSION7：非常食をみんなで分けよ！

「夜中に水道は復旧。二日目の朝は、配給された僅かなパンを工夫して分けて食べること」が告げられた。昨夜の経験を基に、人数分の数がないパンを相談しながら手際良く分けて食べることができた。



（8）MISSION8：根知の災害を学べ！

地元の建設会社から、ここ50年間に起きた根知の自然災害について、記録写真を基に当時の様子の説明を受けた。以前は、水害や土砂災害が多く発生していた地域であることを学習した。

（9）MISSION9：根知の七夕飾りをつくれ！

根知には、独特の七夕飾りがある。3・4年生が、総合的な学習の時間で調べた根知の七夕飾りの特徴について発表した。



その後、地元の老人会の方から指導を受けながら、実際に七夕に飾る人形をつくった。そして、人形を縄に結び、みんなの健康と安全を祈願した。

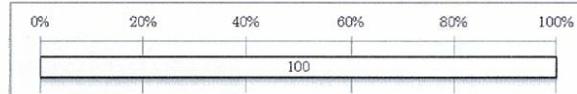
(10) MISSION X : 使ったところをきれいにせよ！

活動の最後に、使用した避難所を手分けして清掃し、避難所を出発した。

○（前略）…水をどうやって使うか迷いましたが、みんなで考えあって決めたので良かったです。宿泊体験で水・食べ物・電気が必要であることがわかりました。今、震災で困っている人に、家で節電して役に立てたらしいなあと思いました。（3年生）
○同じ班の高学年が手伝ってくれたので、グループがしっかりとまとまつた。指示を大きな声でしっかりと伝えることができた。「協力すること」がこんなにも大切であることが分かった。みんなに感謝。（6年生）

問：「もしも災害が起きたとき」に役に立つ体験ができると思う。（3～6年生25名回答）

□とてもそう思う □どちらかというとそう思う □どちらかといふとそうはない □どちらかといふとそうなるかない □まるまるそう思わない



実践例4：道徳授業「被災地支援ボランティア」（9月8日）：A

5. 6年生では、道徳の時間に、防災と関わらせて道徳項目3（1）及び4（4）を扱った授業を行った。

授業の導入として、東日本大震災及び新潟・福島豪雨の被災地復旧支援活動のボランティアとして参加した当校職員の話を位置付けた。自然の力や自他の命を尊重すること、社会に奉仕することの大切さを自覚し、自分の生き方について考えを深めた。

実践例5：防災教室（9月21日）：A B

児童と保護者、地域防災懇談会メンバーを対象に防災教室（地域防災懇談会③兼）を開催した。

（1）土石流災害の仕組と根知川上流の砂防対策

①土石流災害の仕組について



国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所職員から模型や実際の映像を用いて、土石流と地滑りの発生の仕組や破壊力などの特徴について学んだ。

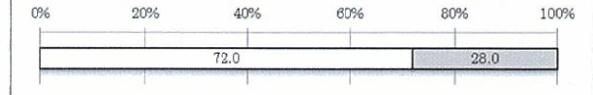
②根知川上流の砂防対策について

地域の中央を流れる根知川の上流で、砂防工事を行っている建設会社の職員から、砂防ダムについて学ん

だ。砂防の目的や砂防ダムの種類、ダムの果たす役割についての話を聞き、砂防事業により地域が守られていることを実感した。

問：土石流や地すべりがおきる仕組がわかった。（3～6年生25名回答）

□とてもそう思う □どちらかといふとそう思う □どちらかといふとそうはない □どちらかといふとそうなるかない □まるまるそう思わない



（2）知っておきたい家庭における災害時の対応

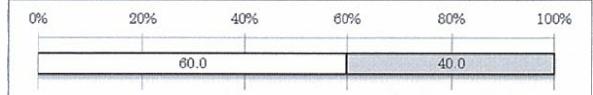
市消防本部防災室職員からは、寝ているときやお風呂に入っているときなど、学校以外のさまざまな場面を想定し、それぞれの場面で災害が発生した際にどうしたらよいか、クイズ形式で対応の仕方を学んだ。



最後に、日頃から家族で、「逃げる場所・集合場所・逃げる道筋・方法・時間」と「連絡方法」、「持ち出すもの」を話し合っておく必要性を認識した。

問：もし家にいたときに災害が発生した場合、どう行動したらよいかわかった。（3～6年生25名回答）

□とてもそう思う □どちらかといふとそう思う □どちらかといふとそうはない □どちらかといふとそうなるかない □まるまるそう思わない



実践例6：総合的な学習の時間（総合）の学び（通年）

（1）3・4年生「さがそう！守ろう！根知の宝～ジオパークの文化探検隊～」

根知の伝統文化について探究した。根知の宝を発見しようと地域を探索した際、あちこちに石の祠（水神様）があることを発見し、詳しく調べることになった。



水神様がどういう所にあるのかマップを作成し、地元の住職でもある公民館長から水神様や根知の水害について話を伺った。

根知は昔から地滑りだけでなく水害が多く発生したために、水神様がこの様に祀つてあることを学んだ。

根知の災害の歴史にふれながら、この地で育まれてきた伝統文化を調べ、文化祭では、根知の宝として継承していくために、自分たちで考えた方法を地域に提案した。

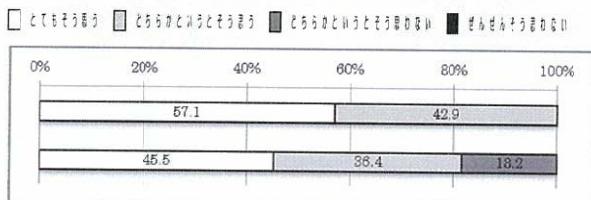
(2) 5・6年生「自然と共に生きる！～未来の根知を考え隊～」



「ジオパークと自然災害についての学習会」や学校田の田植え作業、「防災宿泊体験」で学んだ知識や体験を基に、自然と共に生きながら、根知を更に盛り上げていくことについて探究した。

文化祭では、探究してきたことを劇で表現した。土砂崩れで甚大な被害にあった地域を、豊かな田畠へと懸命に復旧・復興していく昔の地域住民の姿からストーリーが展開した。根知の未来を考え、根知の自然や特産物を生かした児童オリジナルの4つのプランを地域に提案した。

問：「根知の自然（ジオパーク）」と「災害」、「地域の人々の生き方」の3つについても考えることができた。
(上段3・4年生14名、下段5・6年生11名回答)



実践例7：理科の学習（4月～）：A



6年生の「大地のつくりと変化」の学習では、フォッサマグナバク（糸魚川・静岡構造線上で地層が露呈している場所）をはじめ、根知川流域で地層が露呈しているところや砂防工事現場を観察し、住んでいる地域の成り立ちについて考えた。

学校は、海の中で堆積した土や海底火山が噴火して流れ出た溶岩などが混ざった大地（フォッサマグナ）の上にあること、周辺には焼山や妙高山などの活火山があり、大雨による土砂災害だけでなく、火山活動に伴う災害にも注意が必要であることを再確認した。

実践例8：広報活動（4月～）：B

(1) 防災通信の発行

従来の学校だよりに加え、防災教育についてのたより（防災通信）を毎月発行し、保護者と地域、市内の学校に当校の防災教育の計画や実施内容を周知するように努めた。（資料参照）

(2) マスメディアを通した広報活動

地元新聞社へ活動計画を積極的に紹介し、防災教育の普及やジオパーク学習の広報活動を試みた。

防災宿泊体験の1日目の活動については、県内のテレビ局から特番として放送してもらうことができた。根知の人口の48%以上は65歳以上の老人であり、地域には小学校と保育所しかない。有事の際には、「自分の命は自分で守る」だけでなく、「助けられる人から助ける人」として、小学校の職員と児童が動けることが求められる。番組は、防災宿泊体験の中身だけでなく、こうした地域や学校事情まで含めた内容であり、地域住民の防災意識の高揚に一役を担った。

実践例9：職員研修等（4月～）：B

防災教育を推進していく上で、推進する側の職員の研修と関係機関との連携が不可欠である。

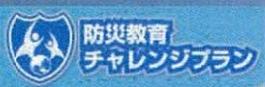
これまで、①根知振興協議会による自主防災組織立ち上げのための会合への参加、②被災地復旧支援ボランティアへの参加、③市防災フェアでの講演、④市教委主催の防災講演会への全職員の参加（職員研修）、⑤防災教育チャレンジプラン実践団体（奈良県河合町役場）との情報交換、⑥学校力セミナー講演会「学校が避難所になった！そのとき教師は・・・」への参加、⑦「地域防災と公民館コミュニティ」をテーマとした公民館大会での実践発表等を行い、研修と関係機関との連携を図ってきた。

IV おわりに

防災教育チャレンジプランの実践団体として、「防災教育とジオパーク、地域（住民）」の視点から、手さぐりしながら防災教育に取り組んだ。市教育委員会をはじめ、市消防本部や博物館、地元の建設会社、公民館、老人会、根知振興協議会、報道関係者など、多くの方々から当校の活動を物心両面から支えていただいた。このネットワークができたことが1番の成果である。この場を借りて、感謝の意を表したい。

また、児童アンケートでは、どの活動も肯定的な評価を得た。特に防災宿泊体験学習が高い評価を得、体験型の学習が、知識を獲得するのに効果的であると再認識した。そのため、体験を取り入れている総合的な学習の時間の学びについては、防災宿泊体験学習の成果に近づけていくことが課題となる。

次年度は、防災教育を校内研修の中心的な柱とし、総合的な学習の時間をはじめ、各教科の学習等において、防災にかかわる内容を取り入れた単元の開発に取り組み、その成果を発信していきたい。



2012 再挑戦！

糸魚川市立根知小学校

〒949-0531 新潟県糸魚川市大字東中 5121-1

TEL (025) 558-2100

FAX (025) 558-2109

E-mail nechi@itoigawa.ed.jp

URL <http://www.nechi.itoigawa.ed.jp/>